

# 災害リスク・防災

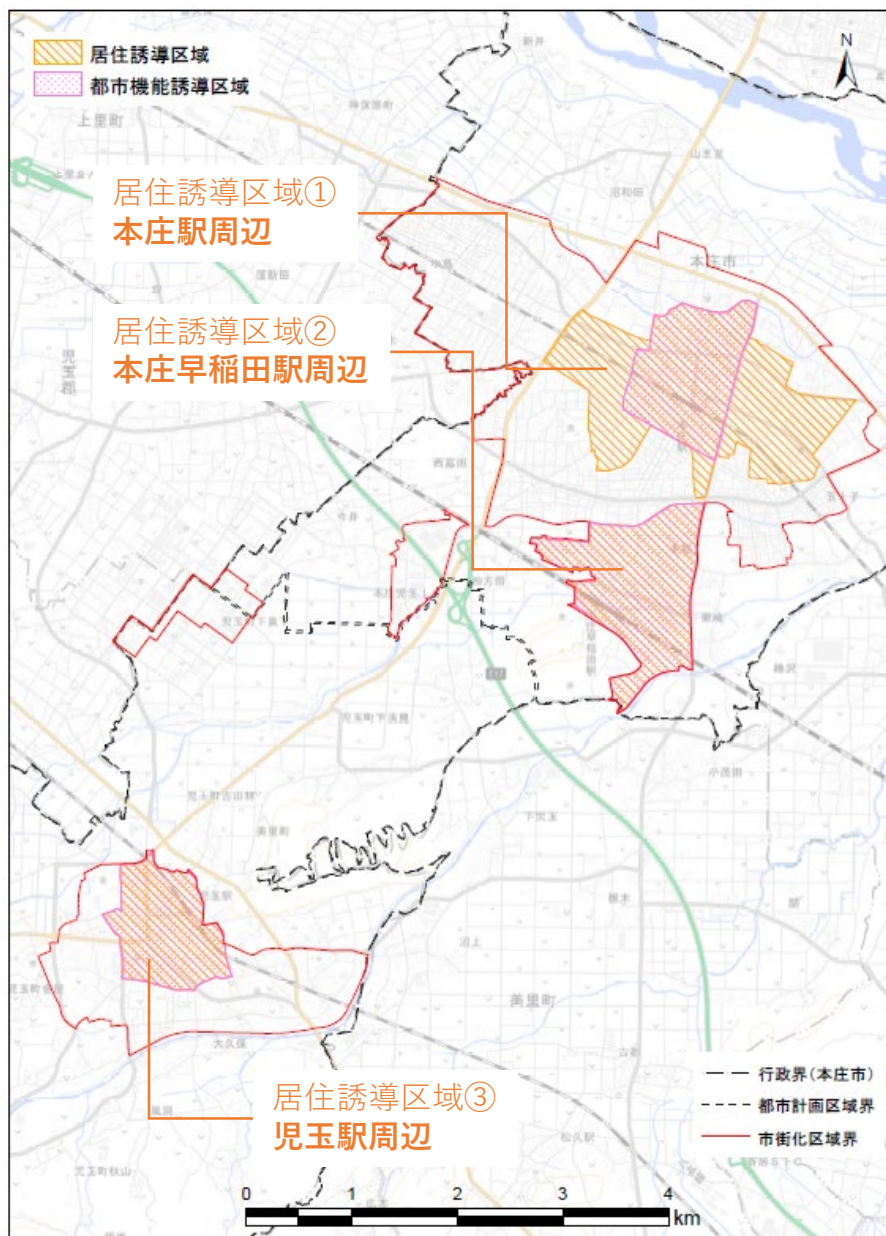
本庄市立地適正化計画改定「防災指針」  
検討のための災害リスク分析

# リスク評価対象

範囲 • 本市は立地適正化計画策定済み自治体であることから、災害リスクの評価対象範囲は「居住誘導区域」周辺とする

種別 ① 地震  
② 水害  
③ 土砂災害  
④ 大規模盛土造成  
⑤ 避難対策

# 居住誘導区域の 位置と範囲



# ①地震

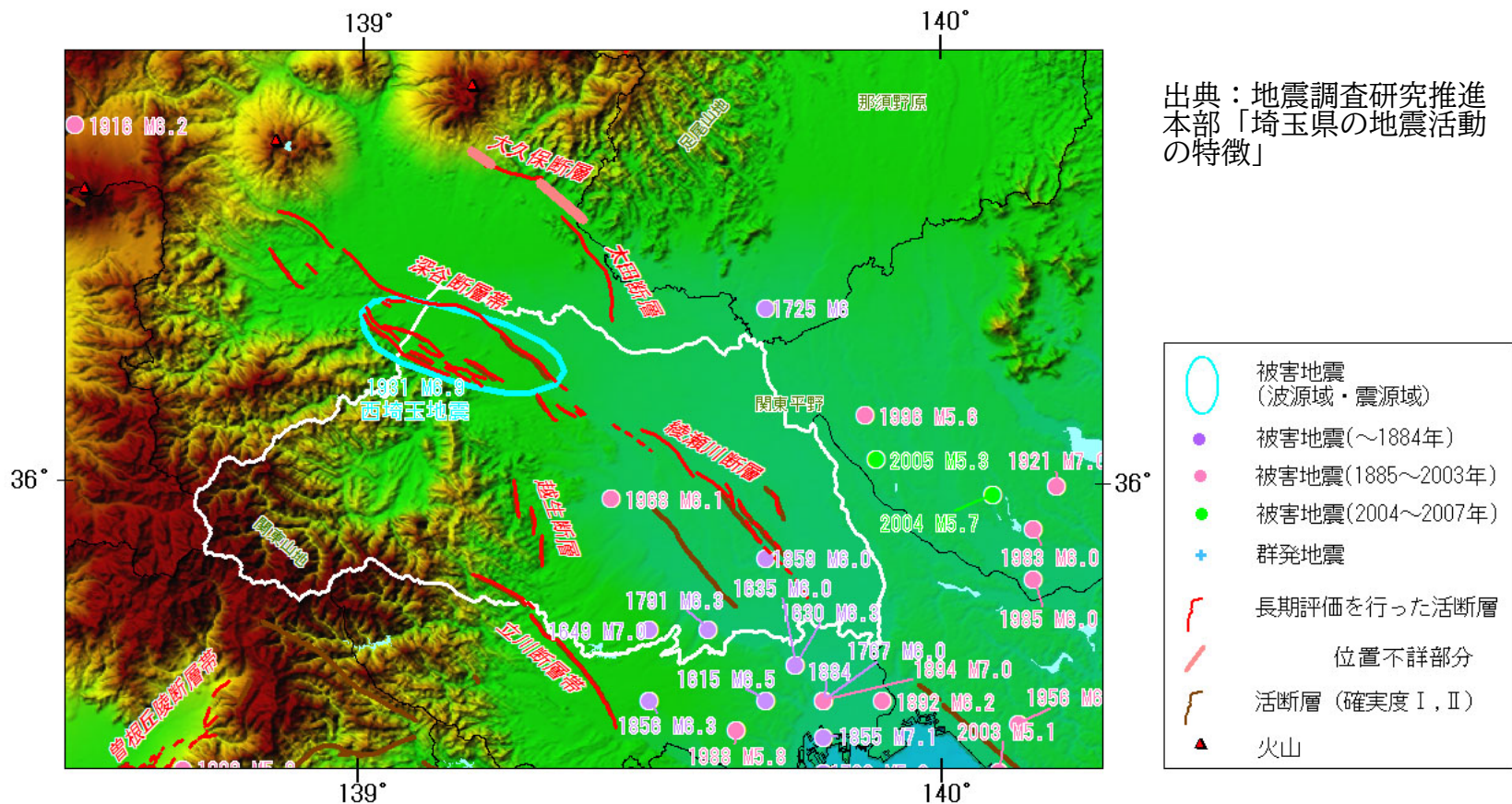
# 本市周辺の震災履歴

震災履歴	1923年	関東大震災	} 被災記録なし
	1931年	西埼玉地震	
	2011年	東日本大震災	

## 【東日本大震災における被災状況】

- 震度5弱
- 灯籠、屋根瓦、外壁、ブロック、墓石の倒壊及び落下等あり（市内計96件）

# 本市周辺の地震活動の特徴



本市周辺の主要な断層帯としては西埼玉地震の震源の可能性が指摘されている**深谷断層帯**（関東平野北西縁断層帯）がある。この断層帯と綾瀬川断層帯を一体として、M8.1程度、30年以内の地震発生確率は0%～0.008%と想定されている。

# 地震被害の想定

埼玉県「平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書」  
(平成26年3月)では本市が関連する最も被害の大きい地震  
として「**関東平野北西縁断層帯地震**」を挙げている。

主な被害想定と市の主な災害対策は表のとおり。

被害想定項目		地震被害	主な災害対策
建物被害 (棟)	全壊	(揺れ) 5,517 棟 (急傾斜地崩壊) 3 棟	▶ 耐震化の推進 ▶ 被災建築物危険度判定体制の整備 ▶ 消火体制の整備 ▶ 土地利用の適正化 (土砂災害)
	半壊	(揺れ) 4,882 棟 (急傾斜地崩壊) 6 棟	
	焼失	617 棟	
人的被害 (人)	死者	365 人	▶ 初動医療体制の整備 ▶ 医療救護班の派遣体制の整備 ▶ 後方医療機関への搬送体制の整備
	負傷者	1,622 人	
	うち重傷者	471 人	

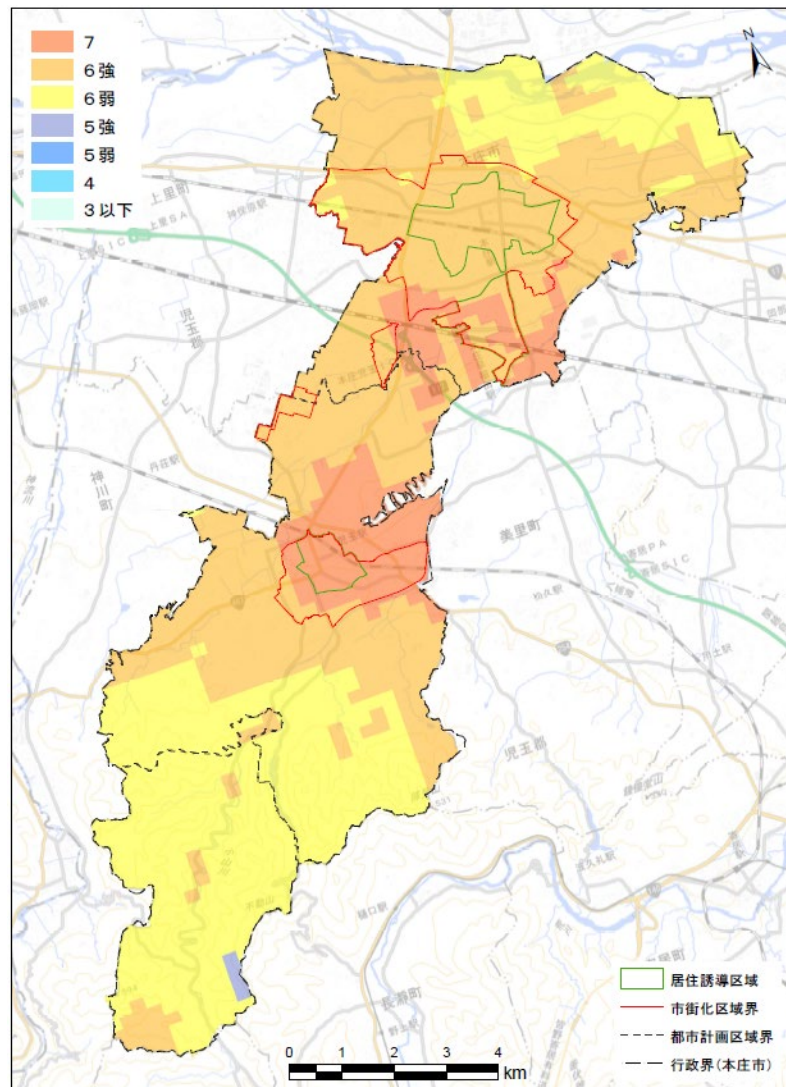
出典：埼玉県「平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書」 (平成26年3月)

# 想定震度分布（関東平野北西縁断層帯地震）

右図は埼玉県が想定している地表震度分布の 패턴のうち、本庄市で最も大きな震度が想定されているものを250mメッシュで表示したものである。

本市の立地適正化計画で定めている居住誘導区域は、児玉駅周辺地区がほぼ震度7、本庄早稲田駅周辺地区が震度7及び6強、本庄駅周辺地区が震度6強のエリアとなっている。

埼玉県「平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書」  
（平成26年3月）で使用したデータからGISで作図

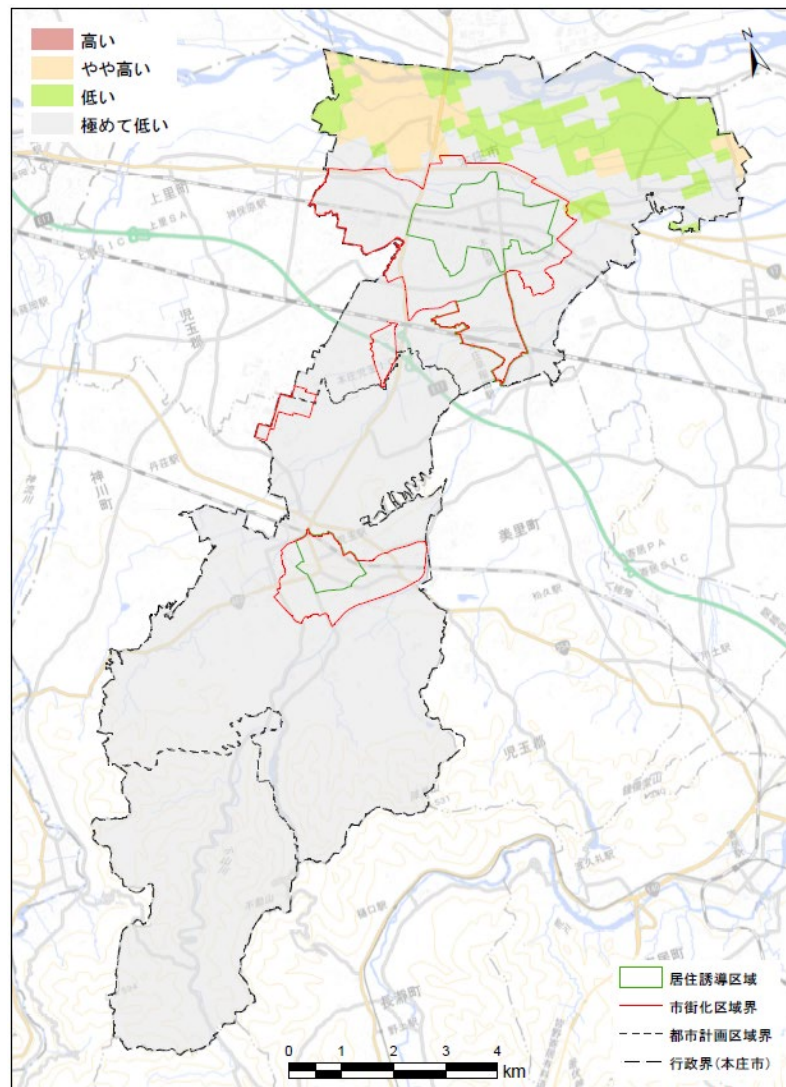




# 液状化可能性分布（関東平野北西縁断層帯地震）

右図は埼玉県が想定している液状化可能性分布である。

市内には液状化の可能性が高い地区は含まれておらず、やや高い・低い地区も利根川沿いの低地に限定されている。

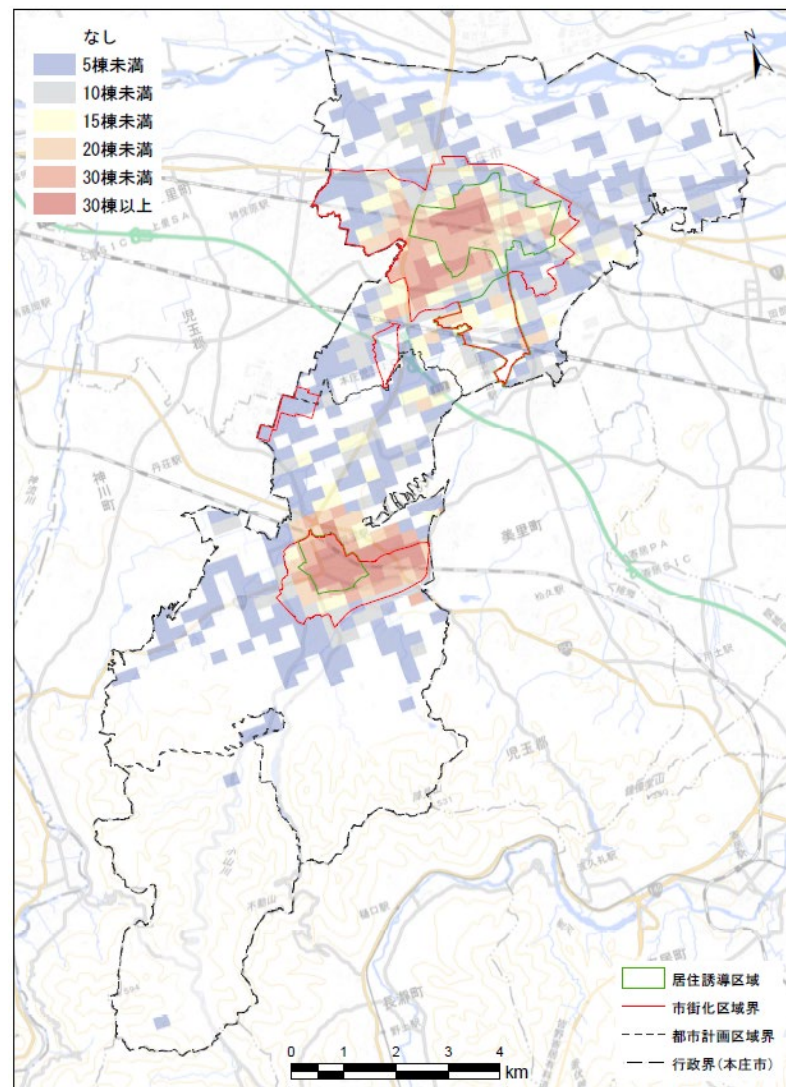


埼玉県「平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書」  
(平成26年3月) で使用したデータからGISで作図

# 全壊棟数分布（関東平野北西縁断層帯地震）

右図は埼玉県の被害想定における全壊棟数の分布図である。

震度想定が6強を上回り、建物の密度が高い児玉駅周辺地区や本庄駅周辺地区で、250mメッシュあたり20棟以上の全壊が発生されることが想定されている。



埼玉県「平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書」  
(平成26年3月) で使用したデータからGISで作図

## ②水害

# 本市周辺の水害履歴

水害履歴 1947年9月 カスリーン台風

【被災状況】

- 浸水約1,100戸
- 死傷者13名

以降、内水氾濫を除き大規模な洪水は発生していない

# 浸水想定

本市を流れる利根川及び小山川は、洪水予報河川となっていることから、国により洪水浸水想定区域図が作成されている。本市ではこれに加えて、埼玉県・群馬県が作成した洪水浸水想定区域図とあわせて平成30年3月に「本庄市洪水ハザードマップ」を作成し、水害リスクの周知に努めている。（最新版は令和3年3月）

## 想定している大雨の規模

利根川	利根川流域、八斗島上流域の72時間総雨量491mm
烏川	烏川流域の72時間総雨量579mm
神流川	烏川流域の72時間総雨量579mm
広瀬川	広瀬川流域の24時間総雨量589mm
小山川流域	小山川流域の24時間総雨量636mm
女堀川	小山川流域の24時間総雨量636mm
御陣場川流域	御陣場川流域の24時間総雨量690mm
内水氾濫	時間最大57mm

出典：本庄市「洪水・内水氾濫ハザードマップ」  
(令和3年3月)

# 各河川のリスク該当状況

国・県が作成している浸水想定区域図、水害リスク情報図から確認した各河川の該当状況は下表のとおり。

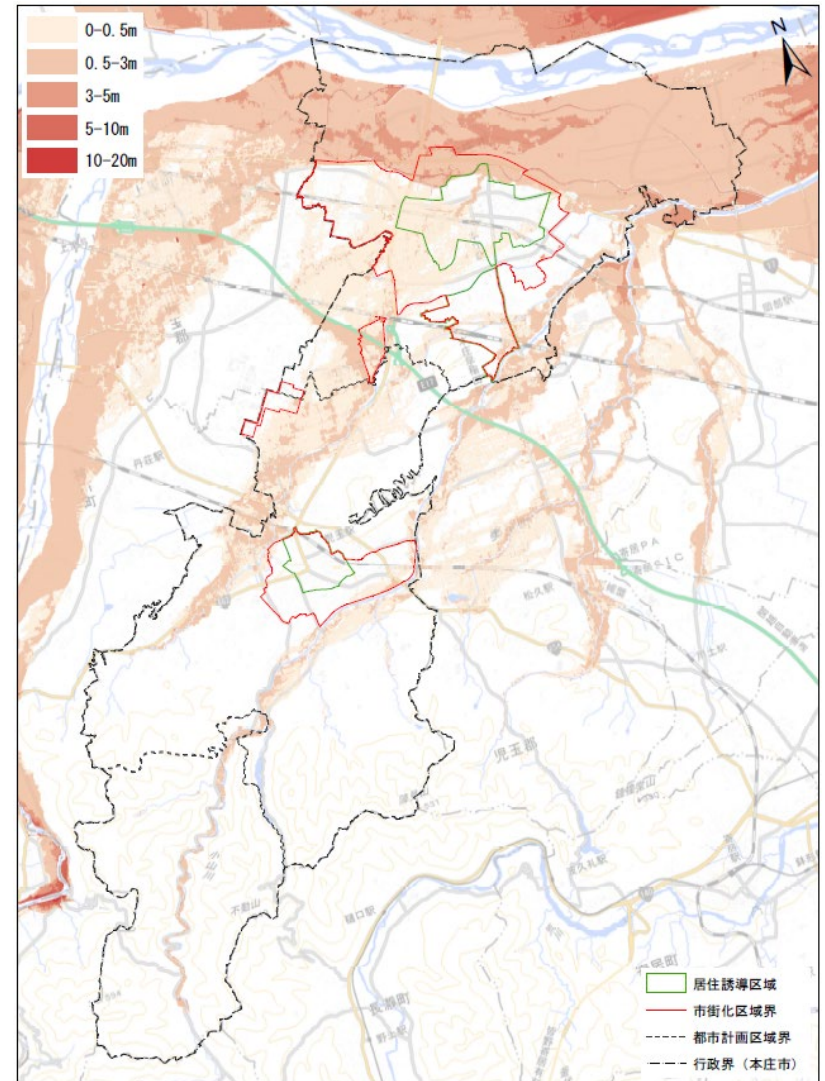
		浸水想定区域 (L2)			浸水想定区域 (L1)			家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)			家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸浸食)			公表年月日				
		居住誘導区域			居住誘導区域			居住誘導区域			居住誘導区域							
		① 本庄 駅 周 辺	② 本庄 早 稲 田 駅 周 辺	③ 児 玉 駅 周 辺	① 本 庄 駅 周 辺	② 本 庄 早 稲 田 駅 周 辺	③ 児 玉 駅 周 辺	① 本 庄 駅 周 辺	② 本 庄 早 稲 田 駅 周 辺	③ 児 玉 駅 周 辺	① 本 庄 駅 周 辺	② 本 庄 早 稲 田 駅 周 辺	③ 児 玉 駅 周 辺					
国管理	利根川	●	●	×	×	●	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	H29.7.20
	小山川	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	〃
	烏川	●	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	H28.8.2
	神流川	●	●	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	〃
埼玉県管理	小山川	●	●	●	×	●	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	R2.5.26
	女堀川	●	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	●	●	×	×	〃
	御陣馬川流域	●	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	〃
	神流川	●	×	×	×	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	〃

●含む ×含まない - 資料なし

# 浸水想定区域（全河川合成・L2）

右図は本市が関連する全河川の浸水想定（L2）を合成し、最大の浸水深を図示した浸水想定区域図である。

居住誘導区域内には0.5m以上の浸水想定区域はほとんど存在しない。本庄駅周辺地区の西側に一団の0.5m未満の浸水想定区域があり、床下浸水が発生する可能性があることについて平時から周知が必要である。



本庄市「本庄市洪水・内水氾濫ハザードマップ」（令和3年3月）で使用したデータからGISで作図

# ③土砂災害

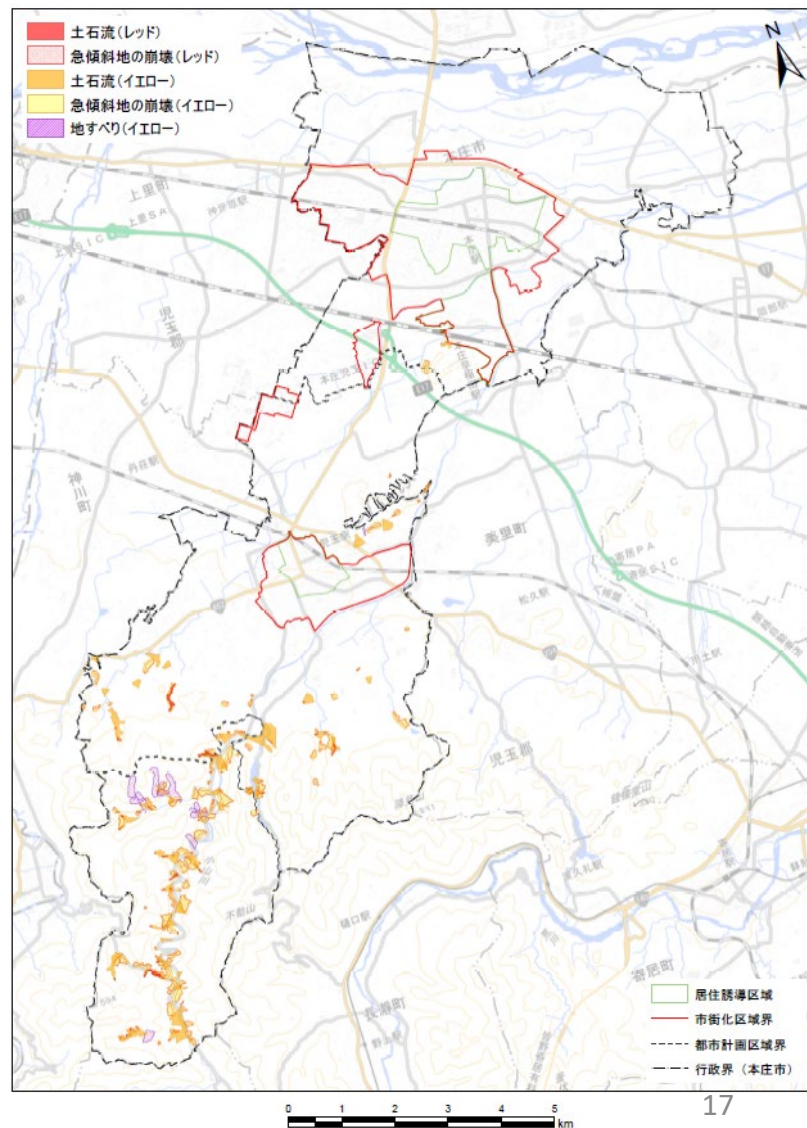


# 土砂災害警戒区域

本市の土砂災害危険箇所は都市計画区域外の谷沿いに集中している。

居住誘導区域内にはレッドゾーン（特別警戒区域）・イエローゾーン（警戒区域）に該当する土砂災害危険箇所は含まれていない。

資料：本庄市「土砂災害ハザードマップ」(H31)



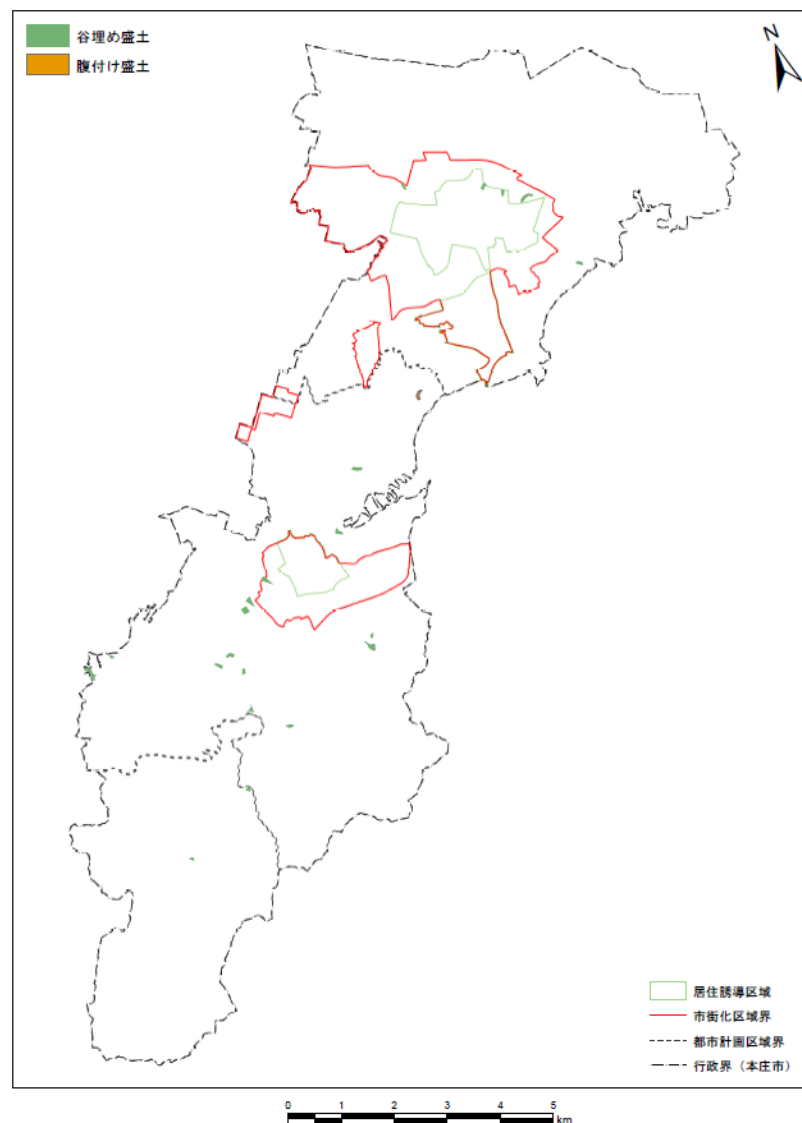
# ④大規模盛土造成地

# 大規模盛土造成地

昨年発生した熱海市伊豆山土石流災害の原因の一つと見られている大規模盛土造成地は右図のとおりである。

市内には大規模盛土造成地が26か所存在し、内22か所が谷埋め盛土、4か所が腹付け盛土となっている。

居住誘導区域には2か所の谷埋め盛土が確認できる。



# ⑤避難対策

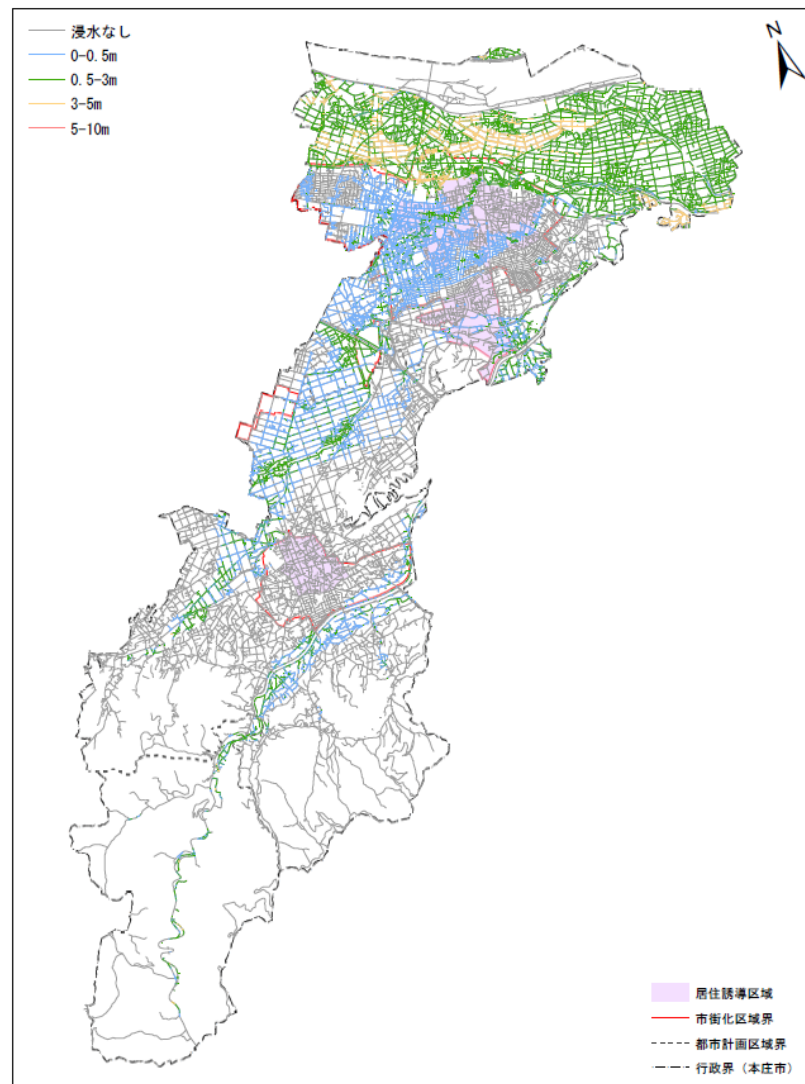
# 道路途絶可能性箇所 (L2浸水想定に基づく)

右図は道路網図※と浸水想定区域図を重ね合わせて、最大規模降雨時に洪水が発生した場合の道路浸水状況を想定したものである。

居住誘導区域のうち、本庄駅周辺地区の西部と南部で0.5m未満の浸水深となる道路がみられることから、車両でしか避難できない人には早期の避難を促すことが必要となる。

※国土地理院のベクトル地図から作成。庭園路除く。

国土地理院ベクトル地図、本庄市「本庄市洪水・内水氾濫ハザードマップ」(令和3年3月)で使用したデータからGISで作図



# 徒歩避難距離圏（全河川合成・L2）

右図は本市の指定緊急避難場所の分布状況と、同避難場所まで徒歩で避難した場合の距離圏図である。

一般に徒歩による避難限界距離は2kmと言われており、赤色までが徒歩避難可能区域となる。

居住誘導区域は3地区とも概ね1kmの範囲内に収まっている。

「本庄市地域防災計画（資料編）」から指定緊急避難場所分布図を作成し、GISにより徒歩到達距離圏を算出

